

産業廃棄物処理施設の 変更許可申請の概要について

【株式会社平成開発 安定型最終処分場】

令和6年(2024年)5月10日(金曜日)

佐賀県 県民環境部 循環型社会推進課

1 申請者について

○申請者

株式会社平成開発

○代表者氏名

代表取締役 久保 直行

○住所

佐賀県小城市小城町池上2387番1

○業務内容

- ・ 産業廃棄物及び一般廃棄物の収集運搬業、処分業
- ・ 産業廃棄物及び一般廃棄物のリサイクル加工、
有価資源物のリサイクル

1 申請者について

○申請者が有する産業廃棄物処理施設（1 / 2）

施設の種類	産業廃棄物の種類	処理能力
破砕施設①（固定式及び移動式）	がれき類	680 t / 日
破砕施設②（固定式及び移動式）	木くず	200 t / 日
破砕施設③（固定式及び移動式）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスくず等、がれき類	廃プラスチック類：177 t / 日 紙くず：153 t / 日 木くず：266 t / 日 繊維くず：117 t / 日 ゴムくず：244 t / 日 金属くず：180 t / 日 ガラスくず等：184 t / 日 がれき類：182 t / 日
破砕施設④（固定式）	ガラスくず等（廃石膏ボード）	4.7 t / 日
破砕施設⑤（固定式）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスくず等、がれき類	廃プラスチック類：16 t / 日 紙くず：20 t / 日 木くず：19 t / 日 繊維くず：16 t / 日 ゴムくず：29 t / 日 金属くず：24 t / 日 ガラスくず等：36 t / 日 がれき類：30 t / 日
圧縮施設①	金属くず	12 t / 日

1 申請者について

○申請者が有する産業廃棄物処理施設（2 / 2）

施設の種類	産業廃棄物の種類	処理能力
圧縮施設②	廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず	廃プラスチック類： 28 t / 日 紙くず： 25 t / 日 木くず： 61 t / 日 繊維くず： 31 t / 日 ゴムくず： 56 t / 日 金属くず： 98 t / 日
圧縮施設③	廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず	廃プラスチック類： 438 t / 日 紙くず： 420 t / 日 木くず： 350 t / 日 繊維くず： 84 t / 日 ゴムくず： 331 t / 日 金属くず： 559 t / 日
選別施設	廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスくず等、がれき類	144 m ³ / 日
最終処分場①（安定型）	廃プラスチック類、ゴムくず、 金属くず、ガラスくず等、がれき類	面積： 31,599 m ² 容量： 329,471 m ³ ※残余容量： 213 m ³ (R5.3月末)
最終処分場②（安定型）	廃プラスチック類、ゴムくず、 金属くず、ガラスくず等、がれき類	面積： 24,853 m ² 容量： 348,520 m ³ ※残余容量： 328,329 m ³ (R5.3月末)

2 変更許可申請について（概要）

○施設の種類の種類

安定型最終処分場（**拡張**）

○設置場所

多久市南多久町大字長尾1759番16 他49筆

※8筆追加（最終処分場①）

○処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、
ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず及びがれき類
以上5種類（石綿含有産業廃棄物を含む。）

○処理能力（括弧内は変更前）

・埋立面積：**43, 470** m^2 （31, 599 m^2 ）

・埋立容量：**413, 185** m^3 （329, 471 m^3 ）

3 関係市長及び利害関係者からの意見について

○告示及び縦覧

- ・告示日 令和6年1月29日
- ・縦覧場所 県循環型社会推進課、多久市役所
- ・縦覧期間 告示日から1か月（令和6年2月28日まで）
- ・意見聴取 令和6年3月13日まで

○関係市長（多久市長）からの意見

- ・関係法令及び公害防止協定を遵守し、周辺住民の安全、環境面への配慮に基づく営業をされたい。
- ・また、地元地区から説明会等の要望があれば真摯に対応されたい。

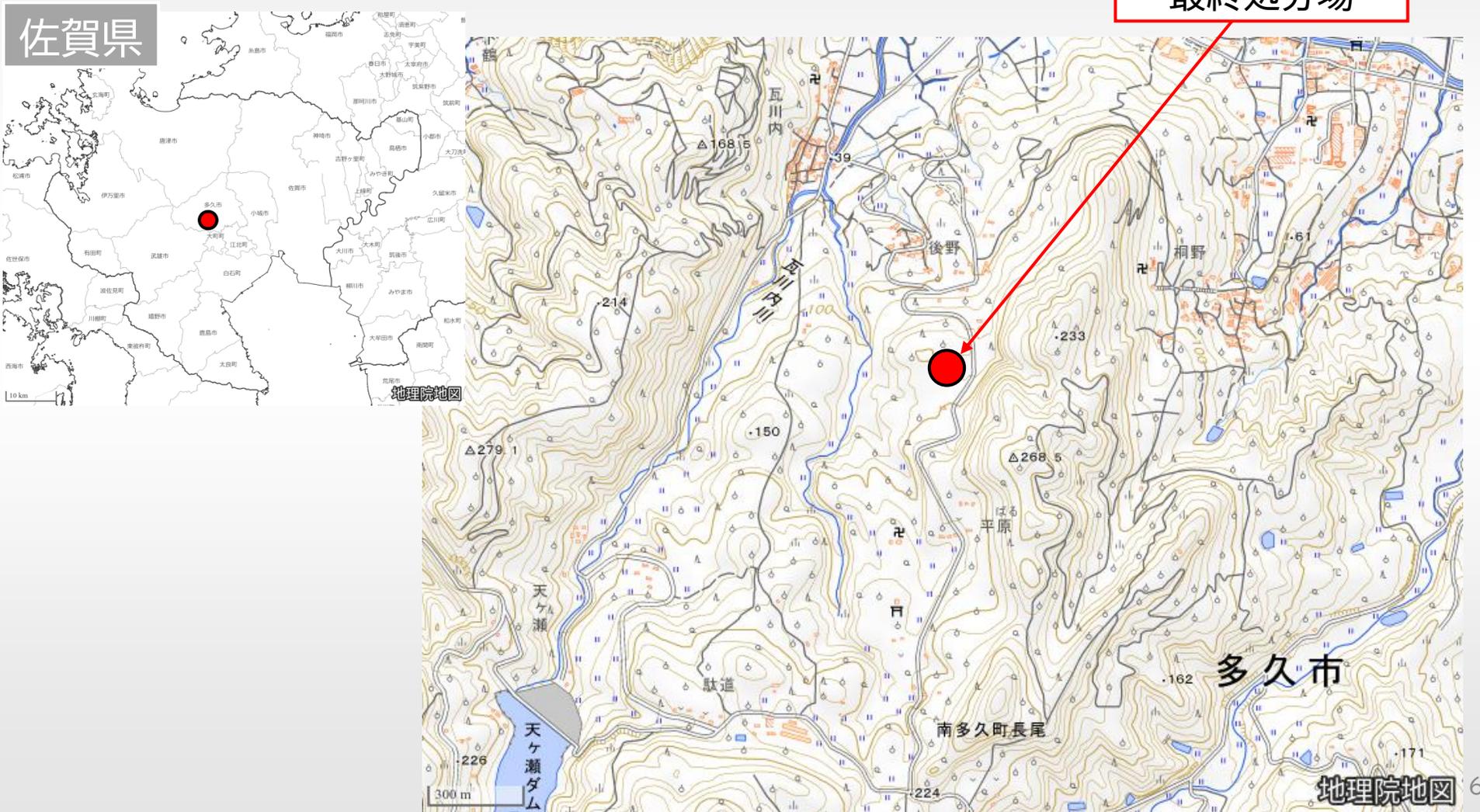
○利害関係者からの意見

- ・意見書の提出無し

4 変更許可申請について（各論）

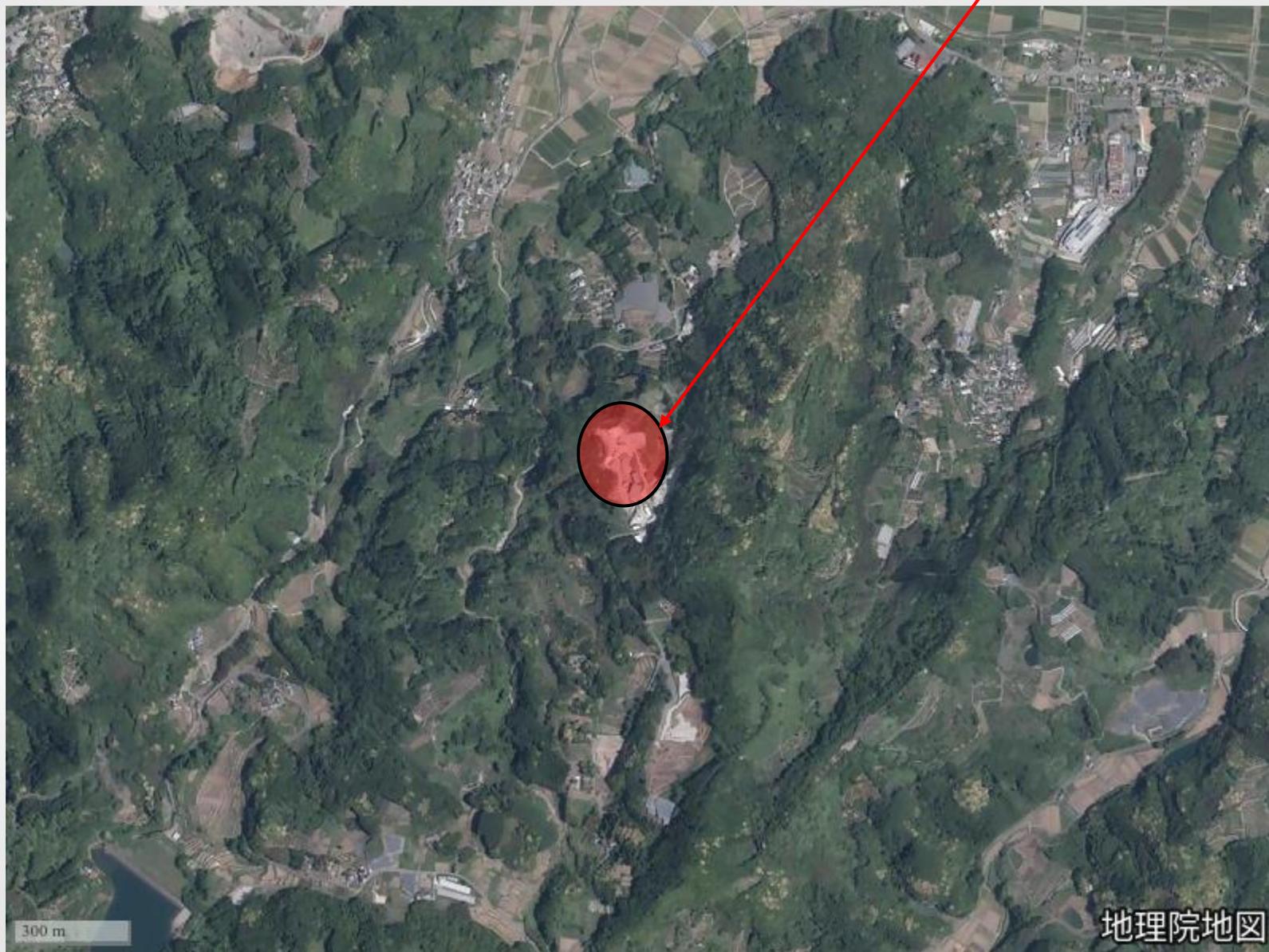
【最終処分場の設置場所】

(株) 平成開発
最終処分場

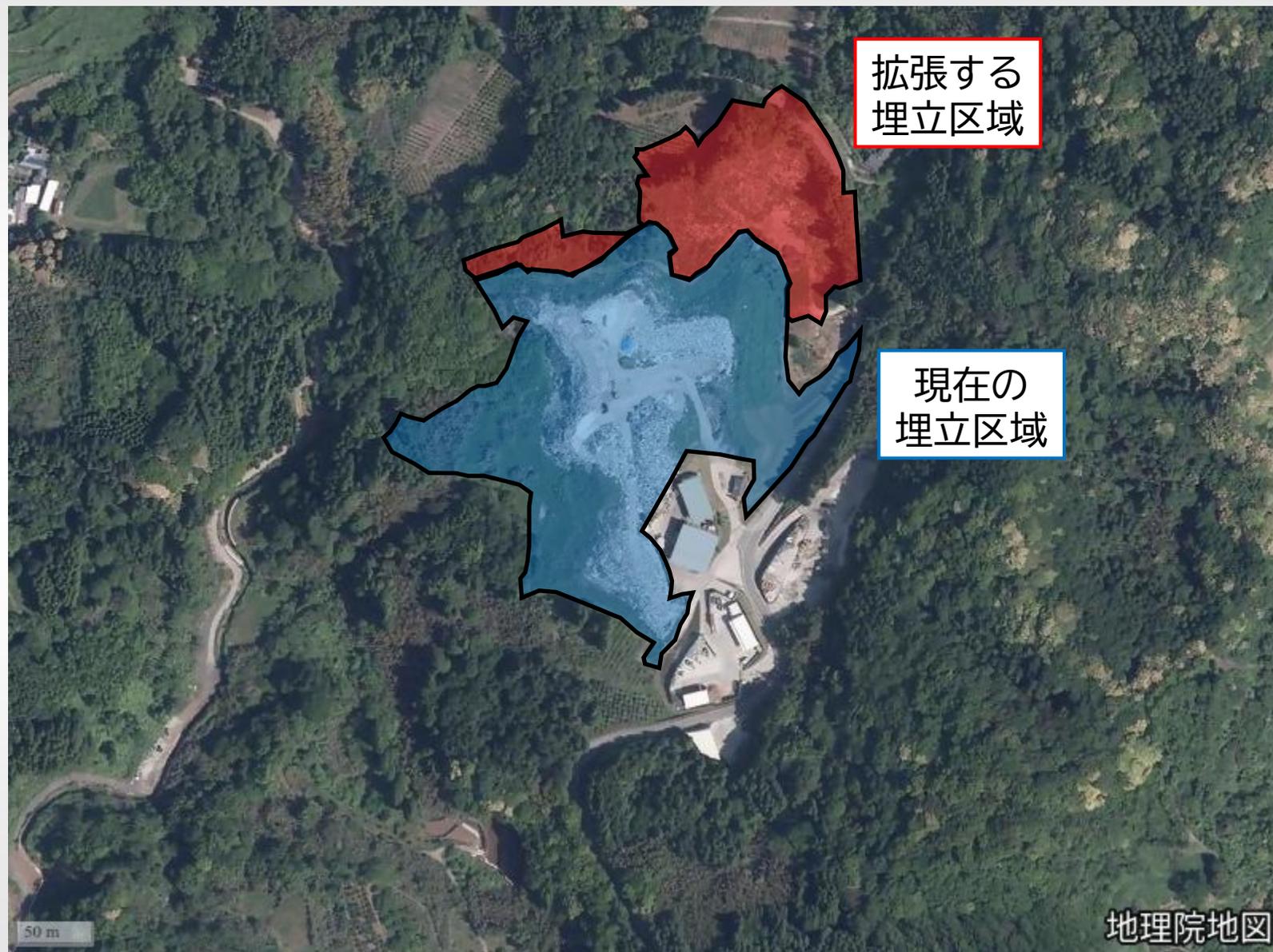


【上空写真】

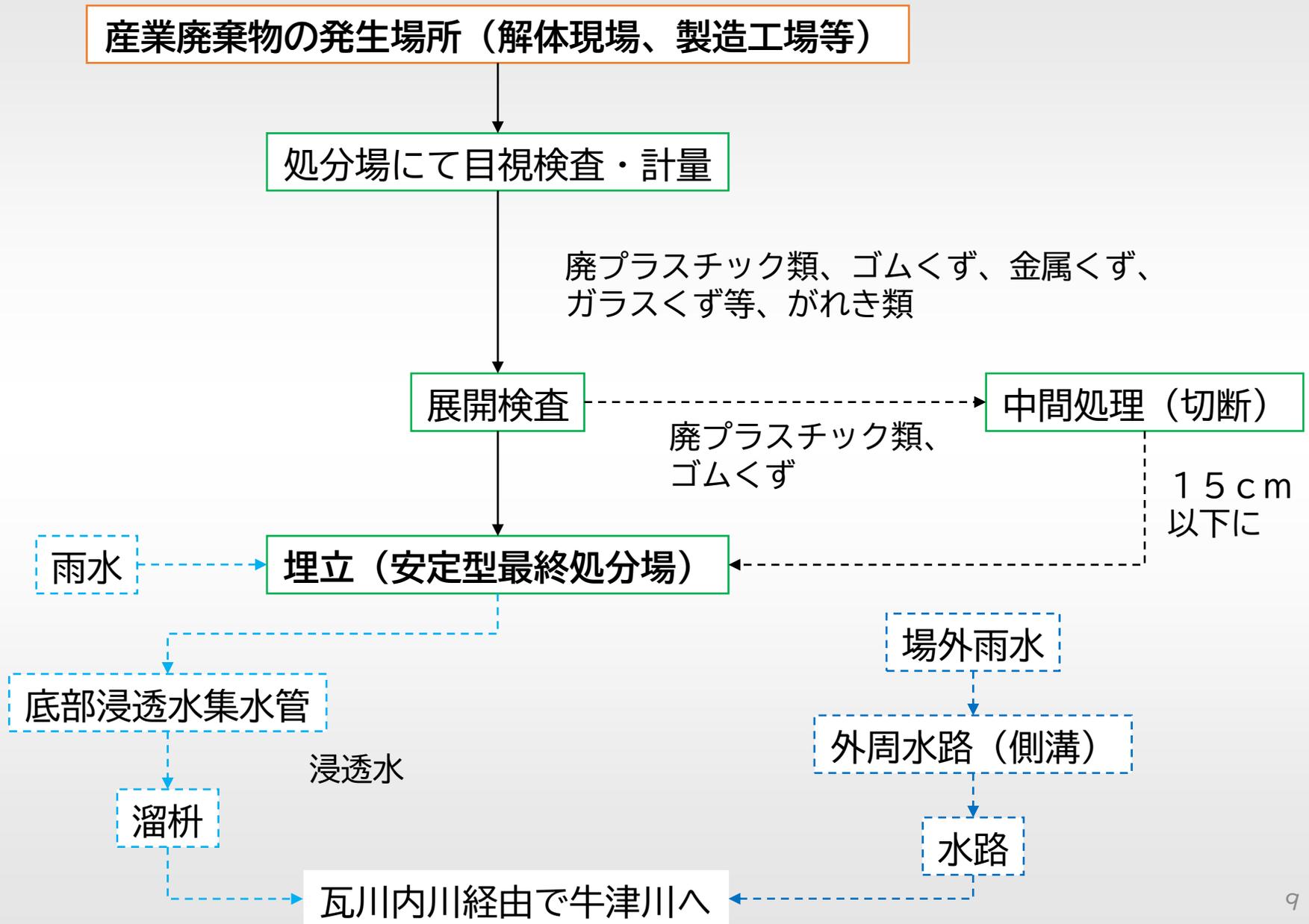
(株) 平成開発
最終処分場



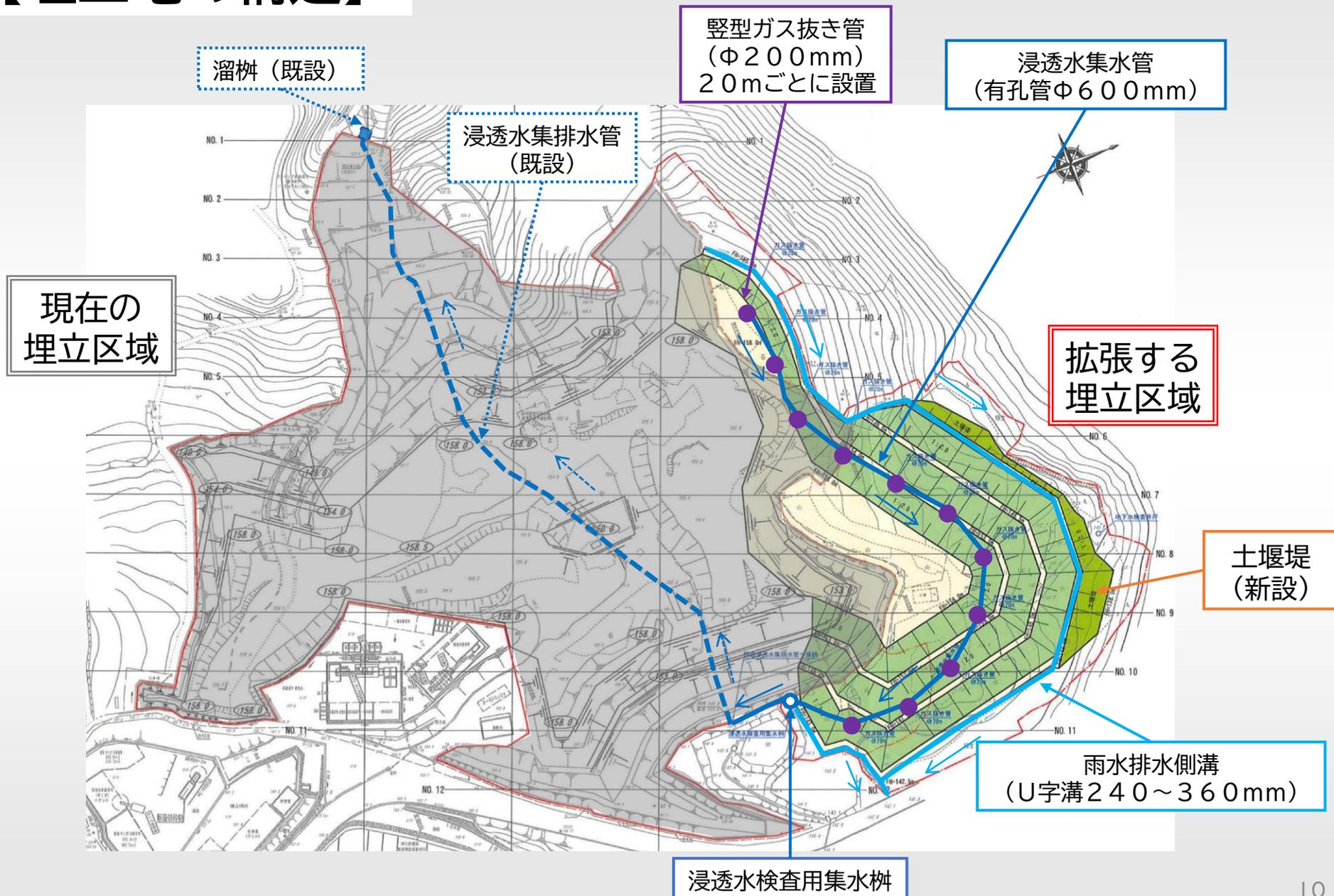
【上空写真（拡大写真）】



【事業計画】

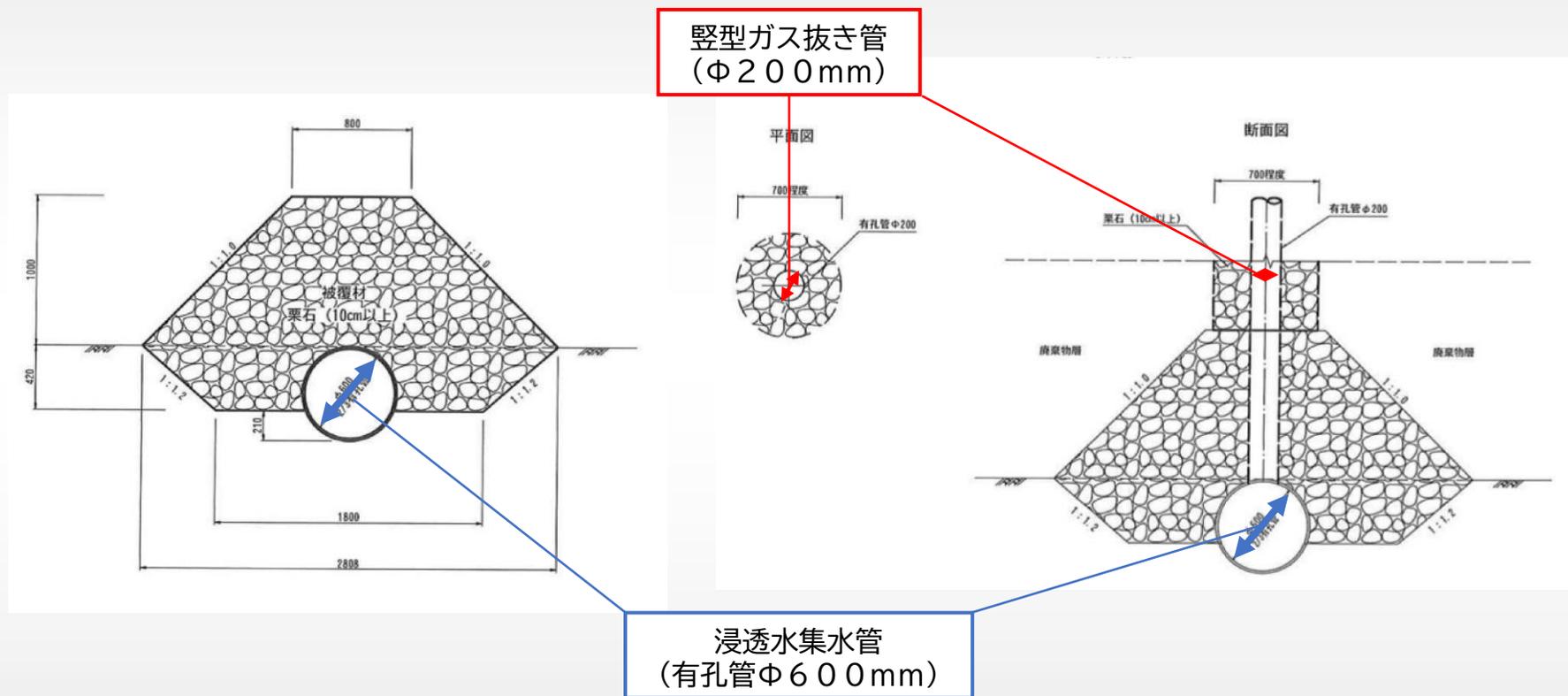


【埋立地の構造】



【埋立地の構造】

○浸透水集水管及び縦型ガス抜き管の断面図



【縦断図面】

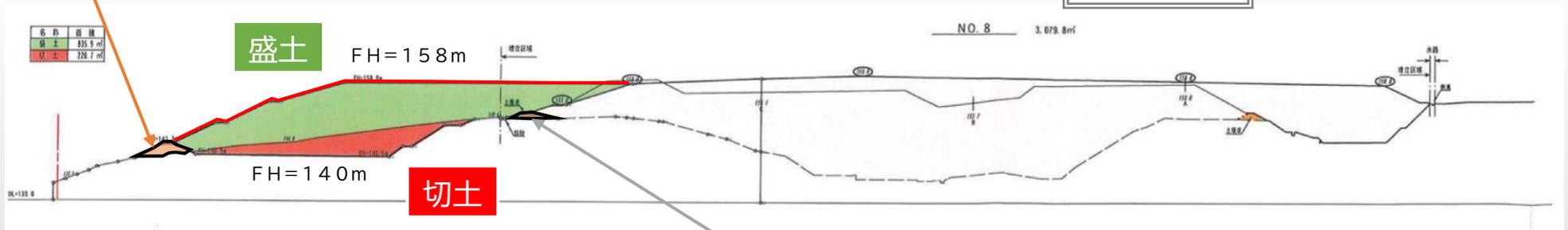


拡張する
埋立区域

土堰堤
(新設)

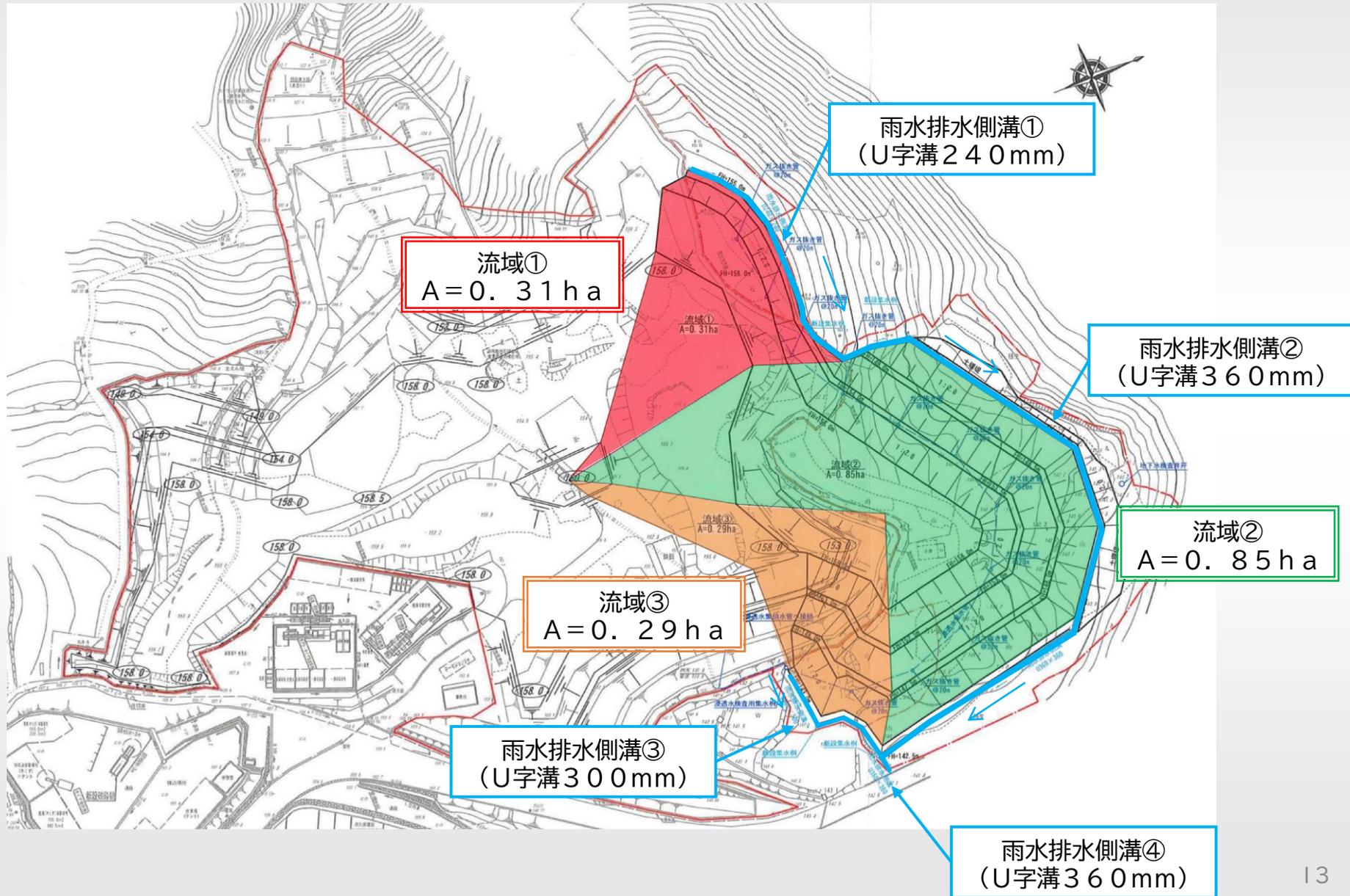
A' - A

現在の
埋立区域



土堰堤
(既設)

【流域図、水路計画図】



【設計計算（周囲側溝）】

○雨水流出量

種別	流域面積 (ha)	流出係数	雨量強度 (mm/h)	雨水流出量 (m ³ /s)
側溝①	0.31 (流域①)	0.8	121.6 県南部地区の10年確率 雨量強度	0.084
側溝②	1.16 (流域①+流域②)			0.313
側溝③	0.29 (流域③)			0.078
側溝④	1.45 (流域①+流域②+流域③)			0.392

○流下可能流量

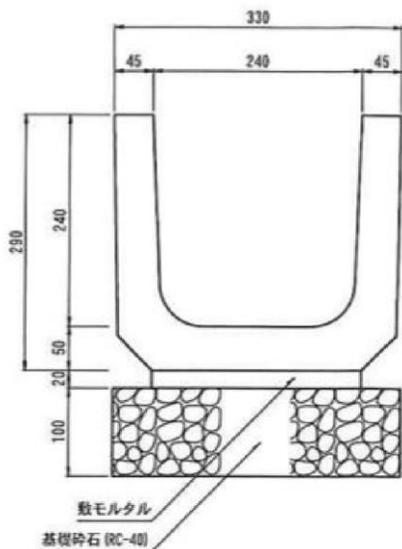
種別	側溝の仕様	断面積 (m ²)	流速 (m/s)	流下可能流量 (m ³ /s)
側溝①	U字溝240mm	0.046	3.024	0.139
側溝②	U字溝360mm	0.1037	3.549	0.368
側溝③	U字溝300mm	0.072	1.721	0.124
側溝④	U字溝360mm	0.1037	4.761	0.494

流下可能流量 > 雨水流出量を満たしている。

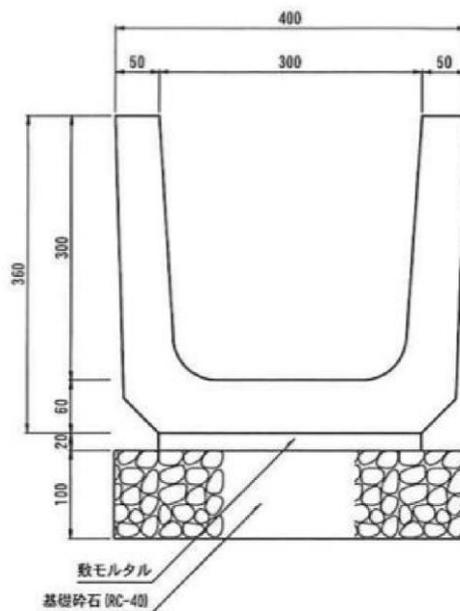
【設計計算（周囲側溝）】

○側溝の断面図

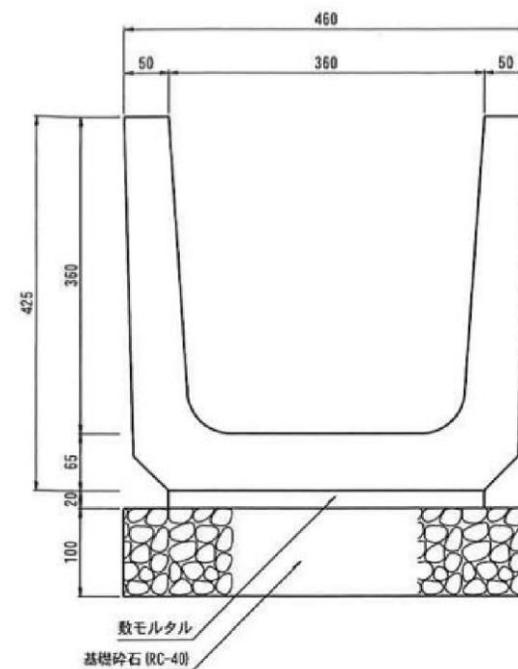
雨水排水側溝①
(U字溝240mm)



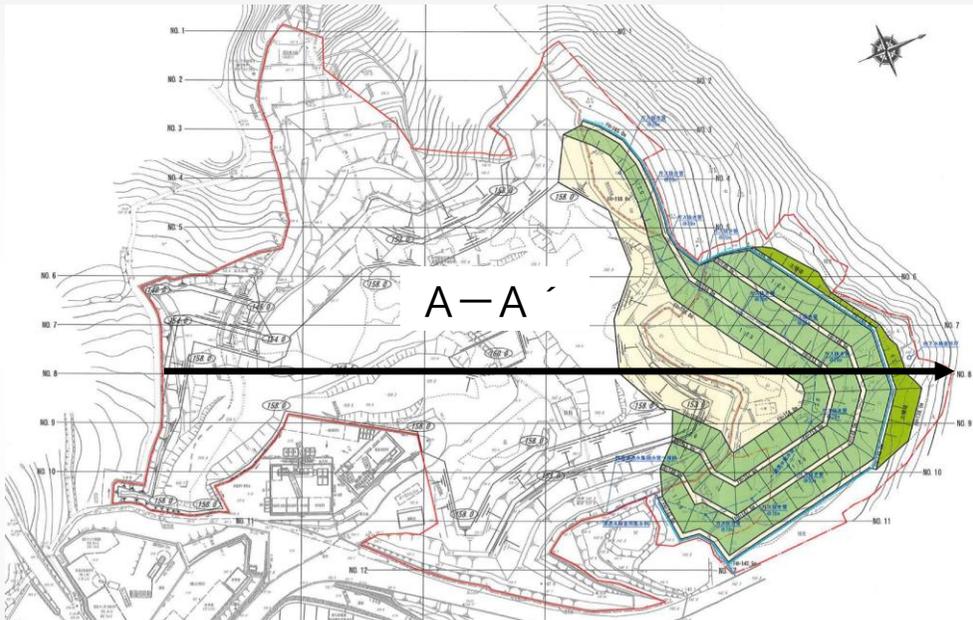
雨水排水側溝③
(U字溝300mm)



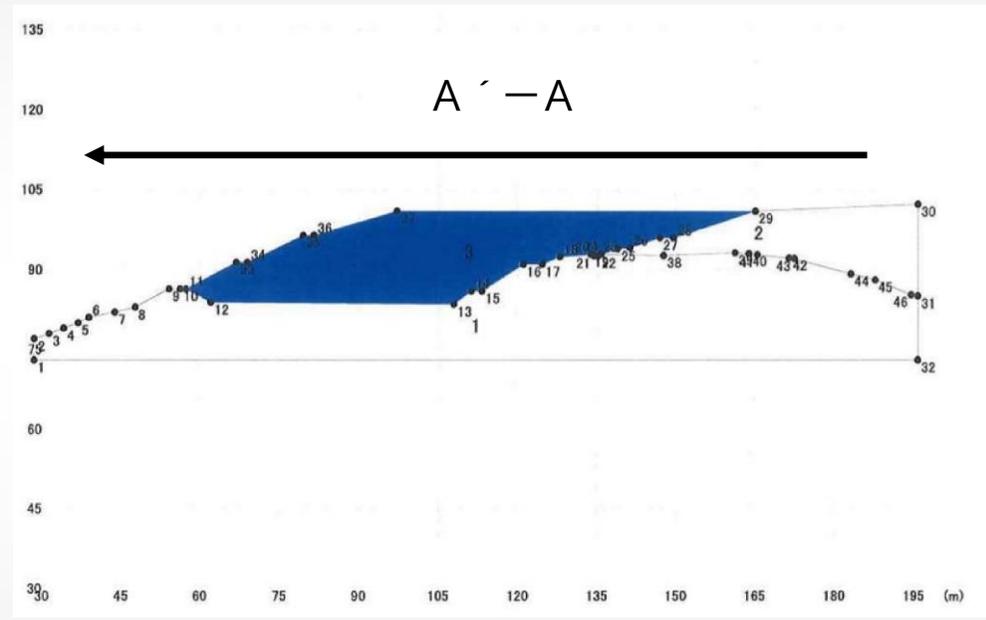
雨水排水側溝②、④
(U字溝360mm)



【設計計算（地滑り防止）】



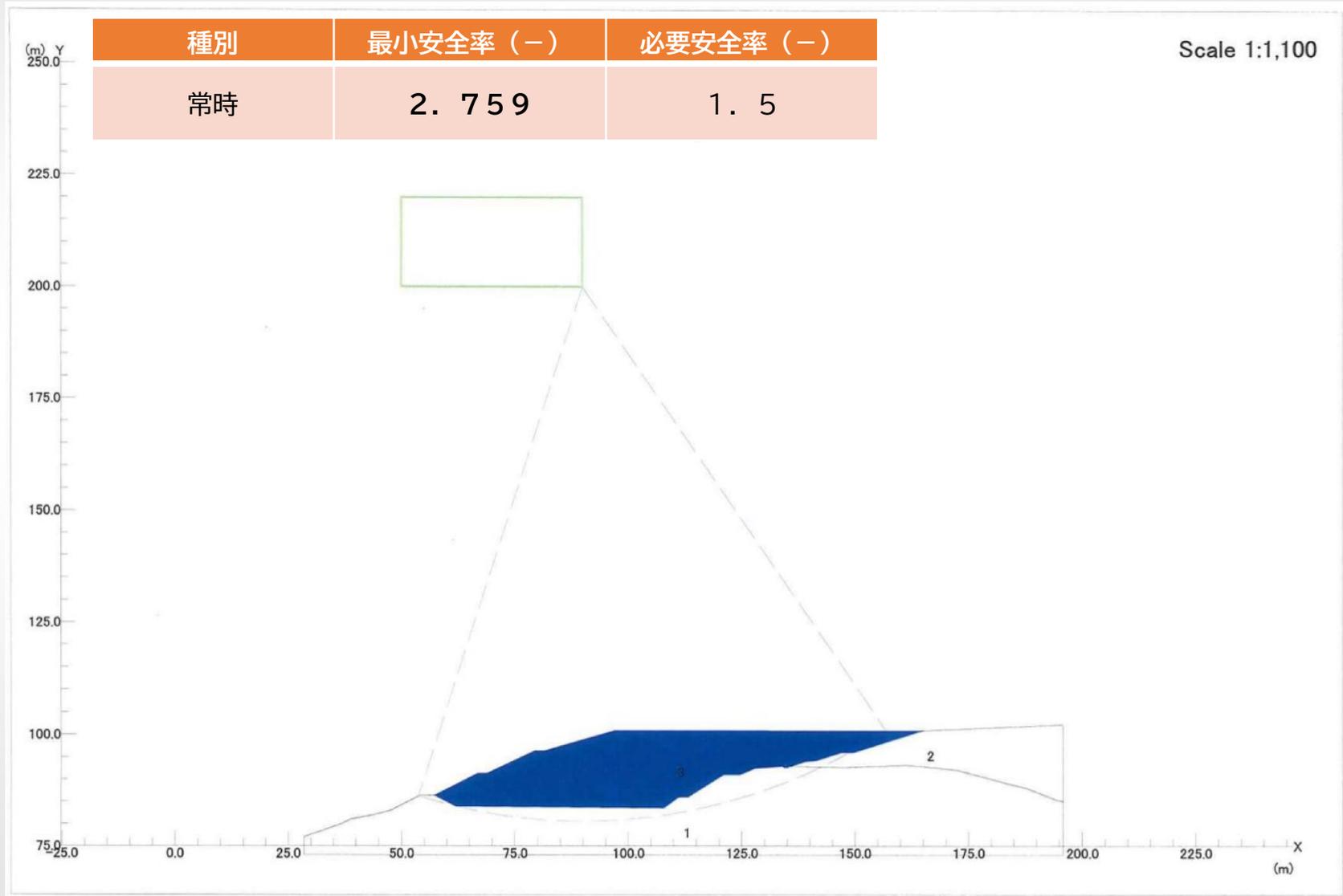
埋立完了時の平面図



検討断面

【設計計算（地滑り防止）】

○安定計算結果（最小安全率）



(m) Y
250.0

種別	最小安全率 (-)	必要安全率 (-)
レベル1 地震時	1.731	1.000

Scale 1:1,100

225.0

200.0

175.0

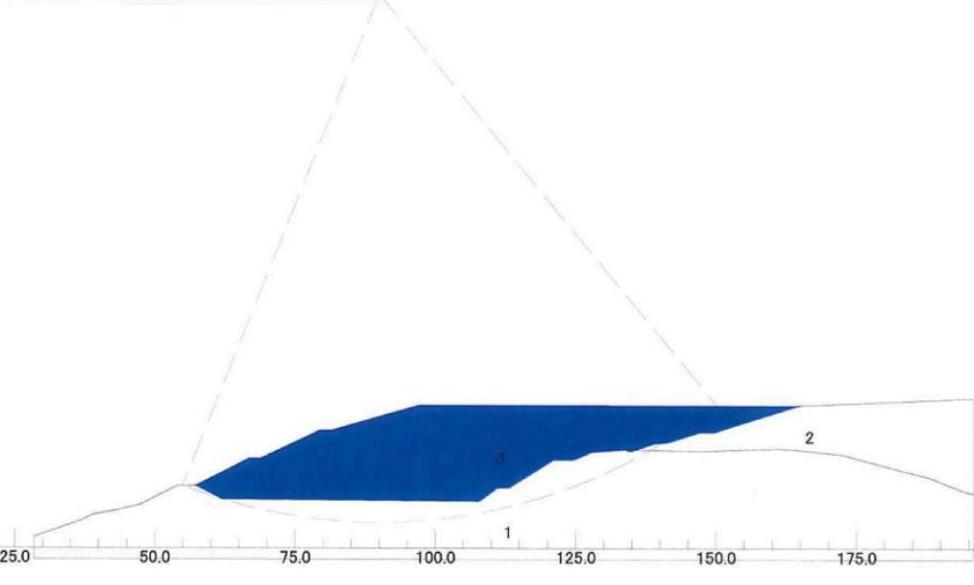
150.0

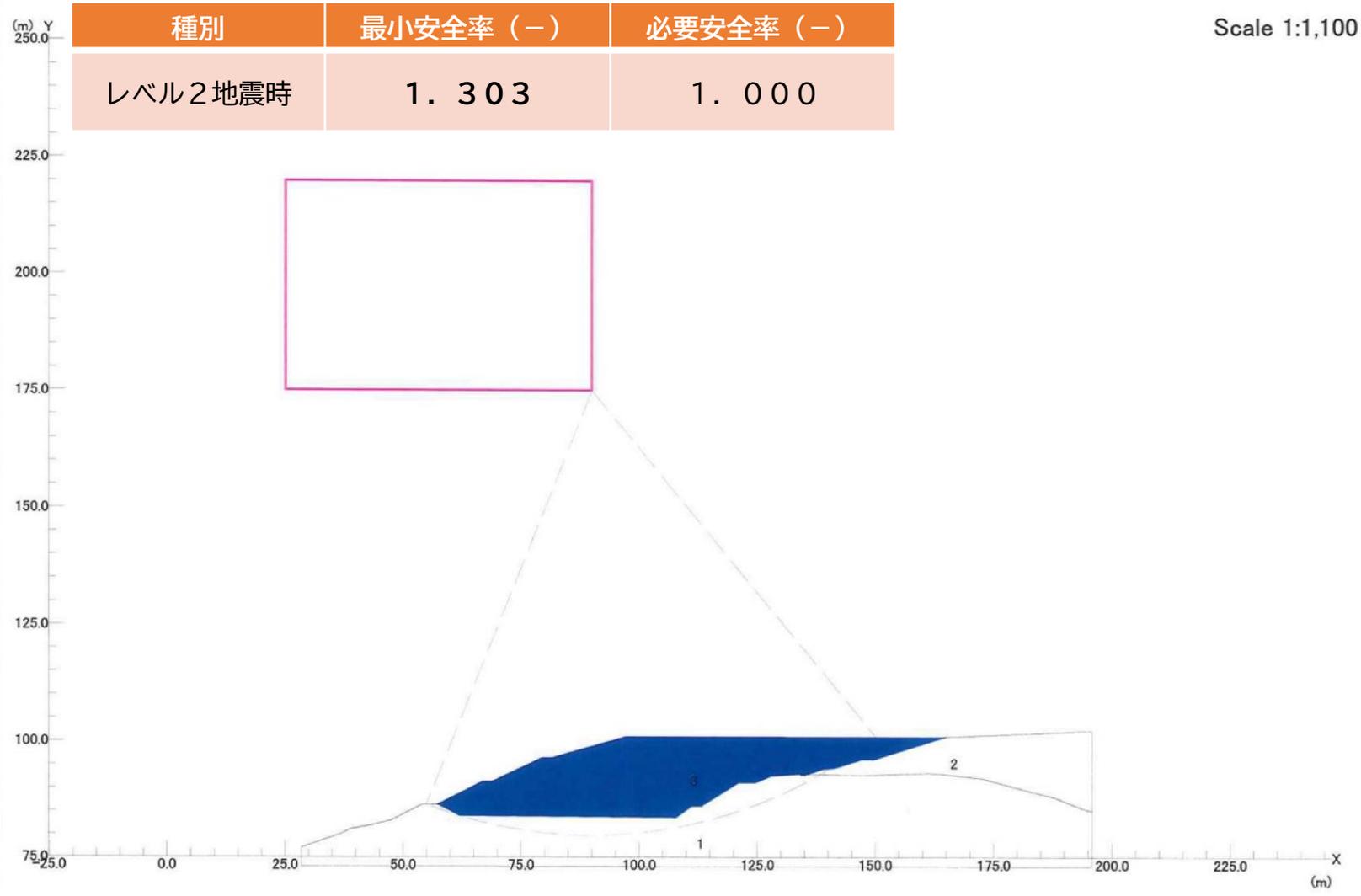
125.0

100.0

75.0

25.0 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 125.0 150.0 175.0 200.0 225.0 X (m)





最小安全率 \geq 必要安全率を満たしている。

【生活環境影響調査】

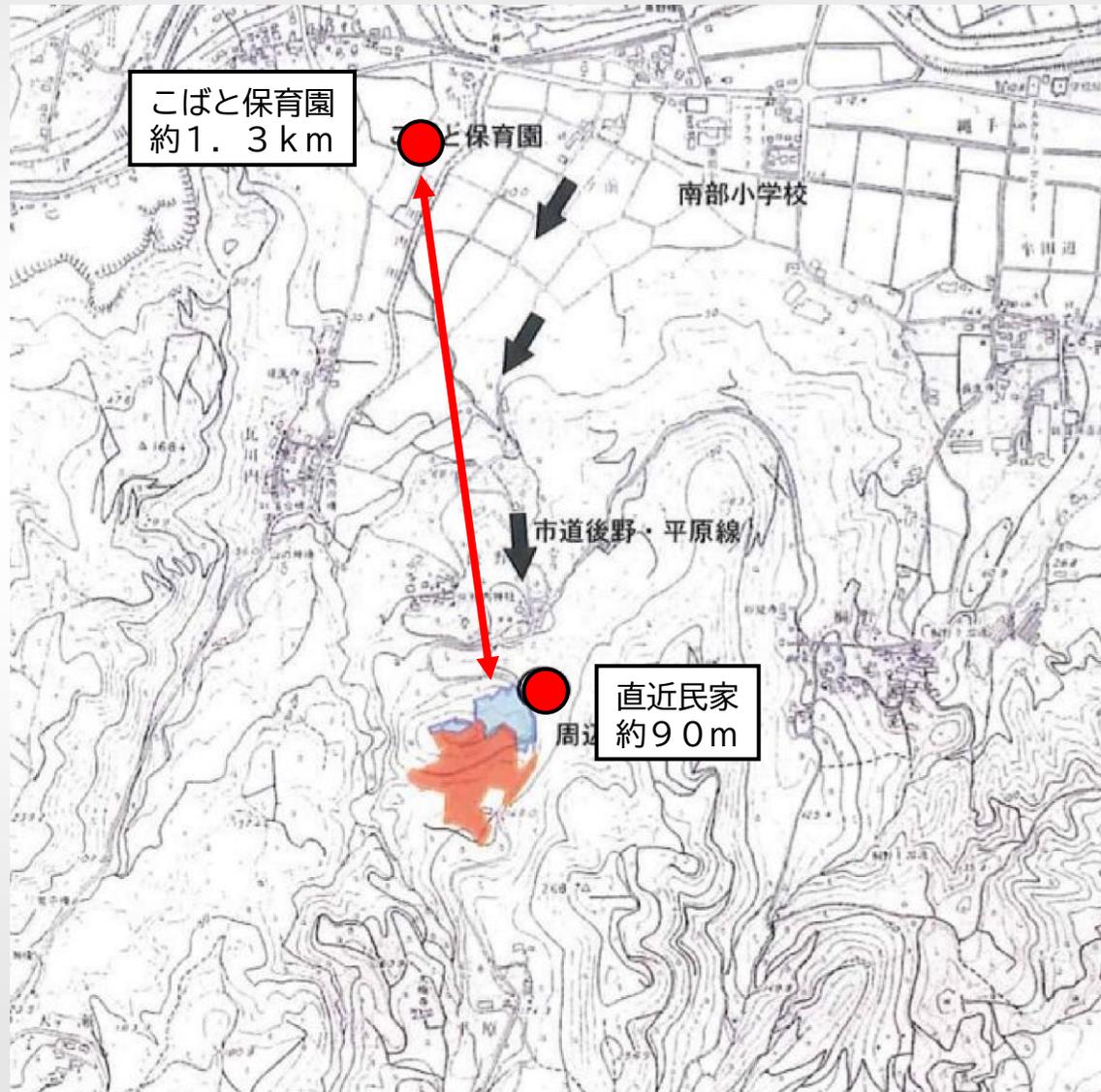
調査事項	影響項目	影響要因	施設からの 浸透水の放流	最終処分場 の存在	埋立作業	廃棄物運搬 車両の走行
大気環境	大気質	粉じん			○	
		二酸化窒素 (NO ₂)				△
		浮遊粒子状物質 (SPM)				△
	騒音	騒音レベル			○	△
	振動	振動レベル			○	△
水環境	水質	生物化学的酸素要求量 (BOD)	○			
		浮遊物質 (SS)	○			
	地下水	地下水の流れ		○		

(注) ○：指針に調査項目として挙げられており、本調査においても調査事項として選定したもの。

△：指針に調査項目として挙げられており、本調査においても調査事項として選定したが、廃棄物運搬車両の台数が現状と変わらないため、現地調査は実施しないもの。

【生活環境影響調査】

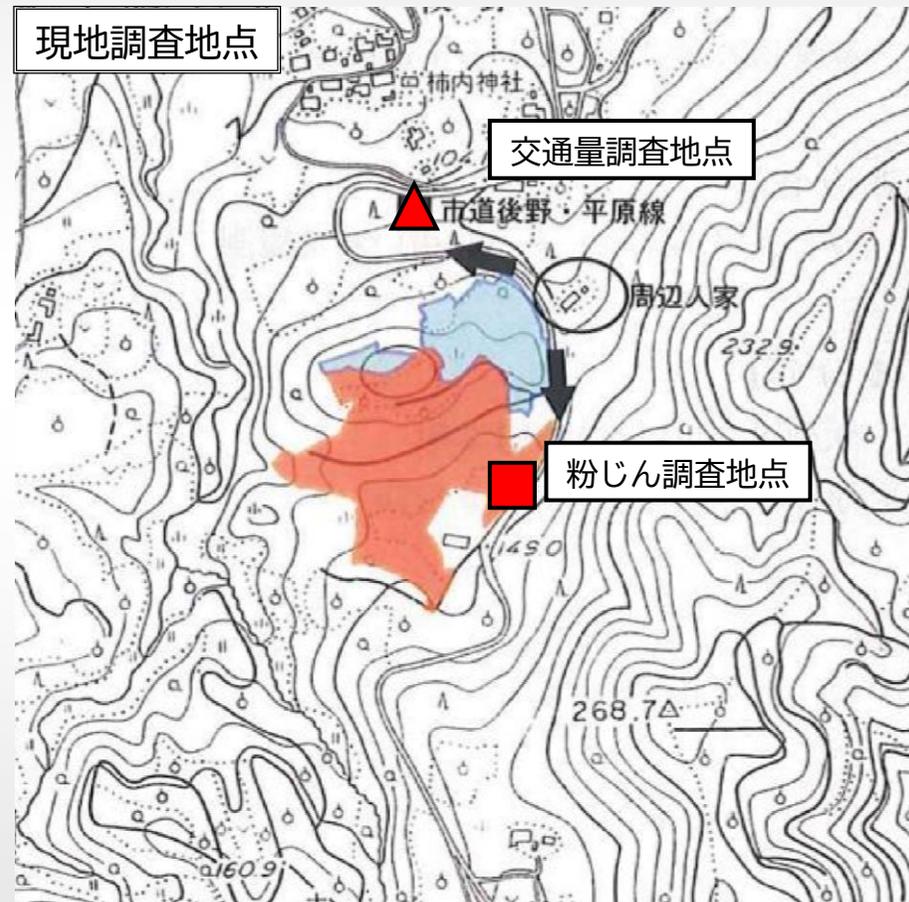
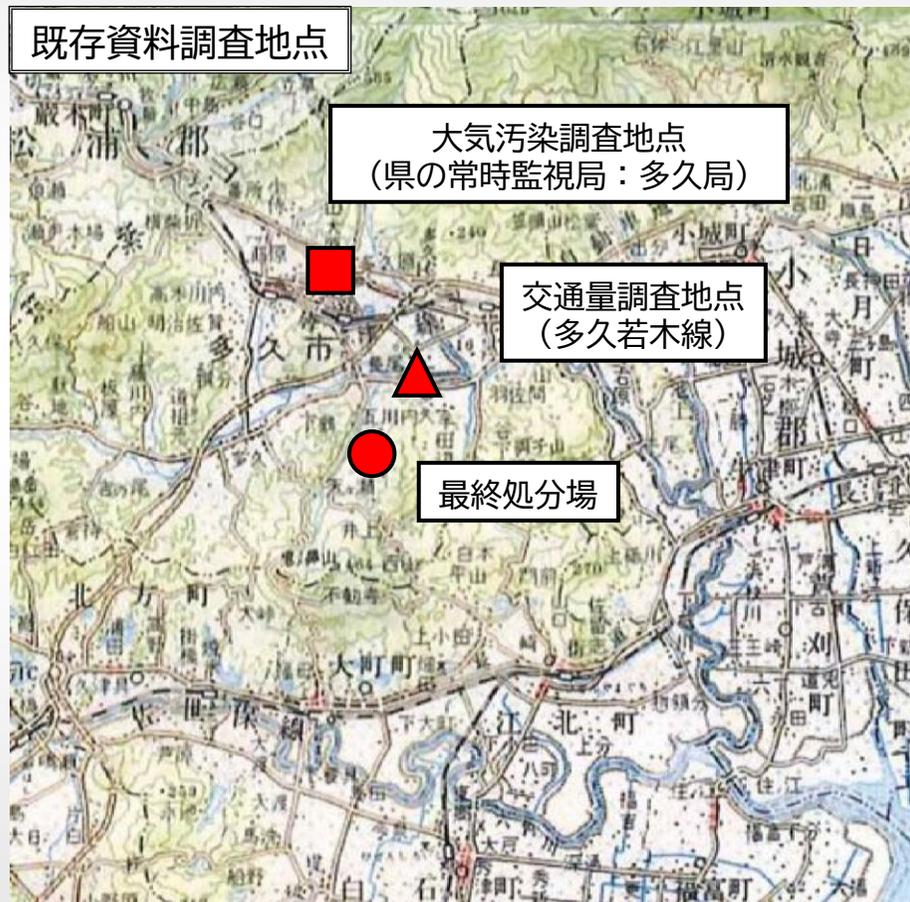
○周辺の土地利用状況



【生活環境影響調査結果】

①-1 大気質（埋立作業）の調査地点

①-2 大気質（廃棄物運搬車両の走行）の調査地点



【生活環境影響調査結果】

①-1 大気質（埋立作業）

（調査書 p22～25）

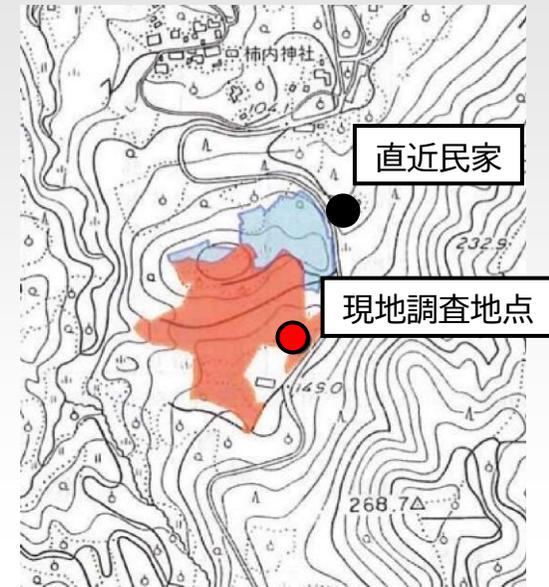
○現状把握

<既存資料調査（県の常時監視局：多久局）>

- ・平均風速は1.7m/s、最多風向は西北西
（令和4年9月～令和5年8月）

<現地調査（定常稼働）>

- ・総粉じん濃度は0.042mg/m³
（令和5年2月15日～22日、7日間連続捕集）



（調査書 p26～31）

○予測結果

<ビューフォートの風力階級を用いた予測>

- ・砂ぼこりが立つとされる風力階級4以上（※）の出現頻度は年間0.9%
 - ・周辺人家への影響が考えられる南西の風の出現頻度は0.0%
- （※）風速5.5m/s以上

⇒埋立作業に伴う粉じんの影響は、ほとんどないと考えられる。

【生活環境影響調査結果】

①-2 大気質（廃棄物運搬車両の走行）

（調査書 p15～23）

○現状把握（交通量）

<既存資料調査（平成27年度）>

- ・昼間12時間の交通量は10,711台（うち大型車1,895台）

<現地調査（令和3年6月10日）>

- ・7時～19時の交通量は251台（うち大型車34台）
- ・交通量のピークは7時～8時の39台（うち大型車8台）

○現状把握（大気汚染）

<既存資料調査（令和3年度）>

- ・NO₂の年平均値は0.005ppm
- ・SPMの年平均値は0.012mg/m³、1時間値は0.068mg/m³
→環境基準を達成
- ・NO₂及びSPMの経年変化はほぼ横ばい（平成29年度～令和3年度）

○予測結果

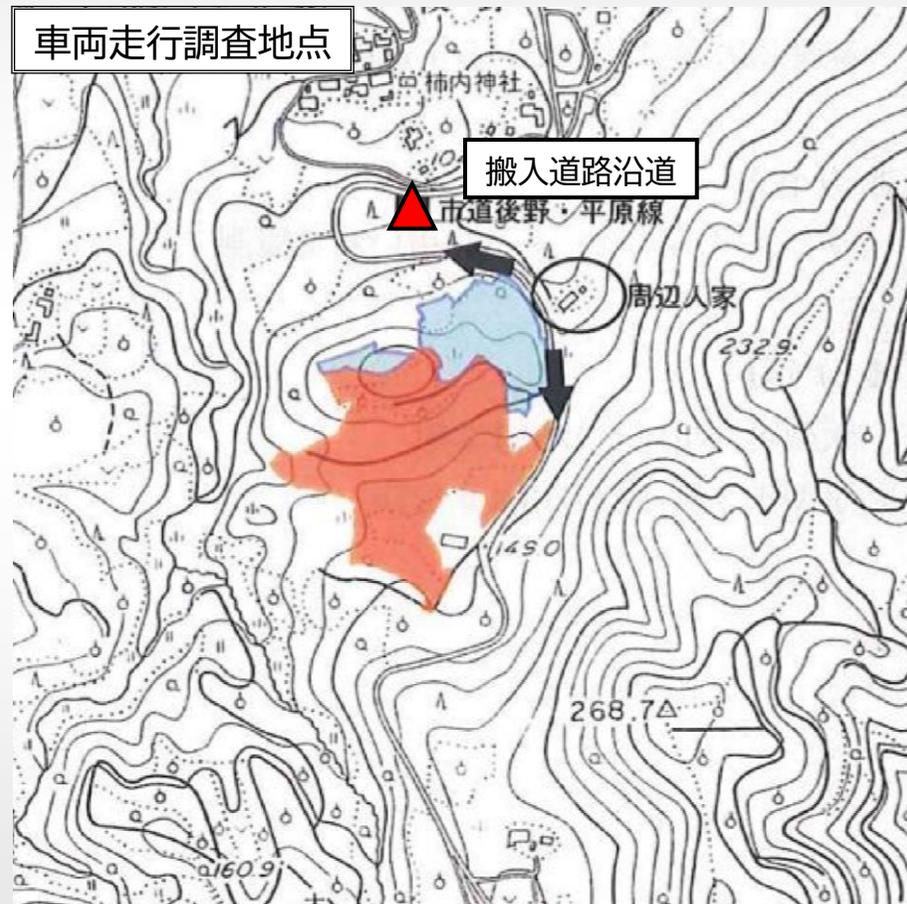
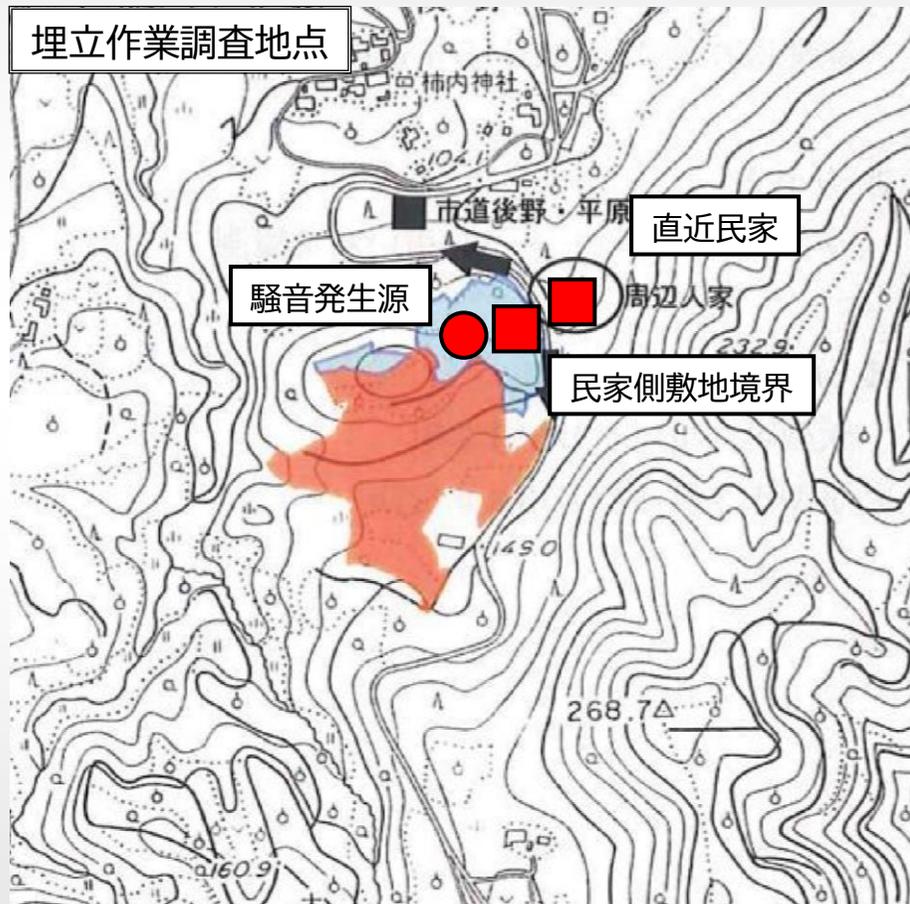
- ・最終処分場拡張に伴い新たに増加する廃棄物運搬車両はない

⇒廃棄物運搬車両の走行に伴うNO₂及びSPMの状況は、現状とほとんど変わらないと考えられる。

【生活環境影響調査結果】

②-1 騒音（埋立作業）の調査地点

②-2 騒音（廃棄物運搬車両の走行）の調査地点



【生活環境影響調査結果】

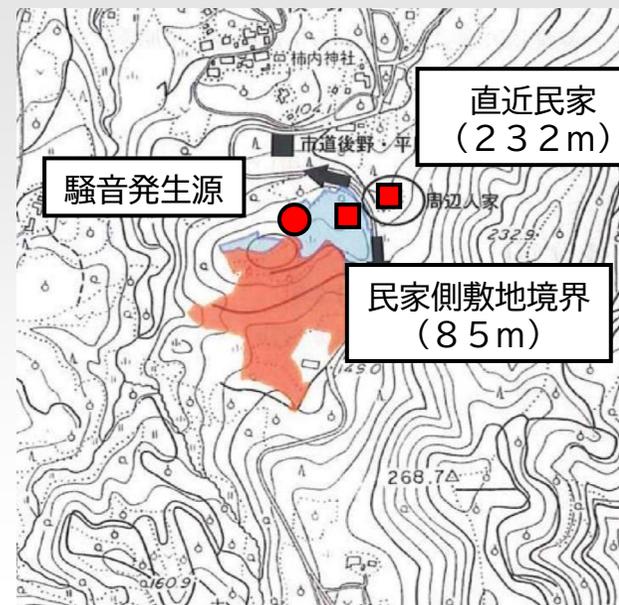
②-1 騒音（埋立作業）

（調査書 p34～40）

○現状把握

<現地調査（定常稼働）>

- ・民家側敷地境界の L_{A5} は最大48dB
（令和5年2月15日、7時～18時）
→第2種区域の規制基準値（60dB）未満
- ・直近民家の L_{A5} は最大42.6dB
（令和5年2月15日、7時～18時）
→B地域の環境基準値（55dB）未満



（調査書 p45～47）

○予測結果

<ダンプトラック及びバックホウの稼働に伴う騒音の予測>

- ・民家側敷地境界の L_{r0} は最大59dB
→第2種区域の規制基準値未満と考えられる。
- ・直近民家の L_{r0} は最大51dB
→B地域の環境基準値未満と考えられる。

【生活環境影響調査結果】

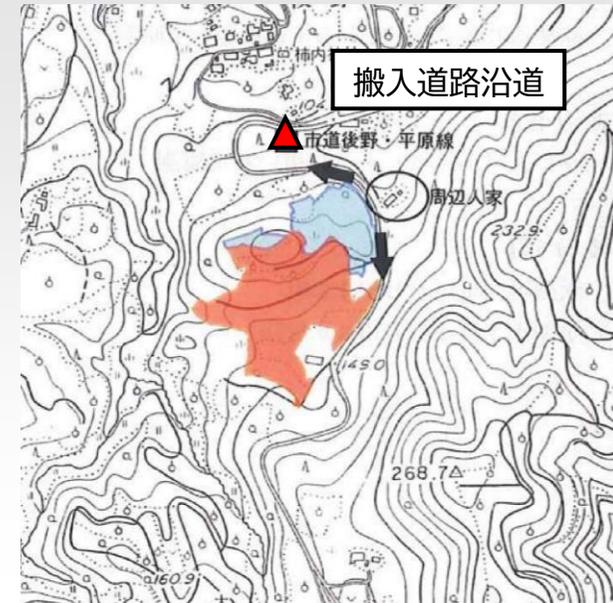
②-2 騒音（廃棄物運搬車両の走行）

（調査書 p41～42）

○現状把握

<現地調査>

- ・ 搬入道路沿道の L_{Aeq} の平均値は 54.2 dB
（令和3年6月10日、7時～18時）
→ B地域の道路に面するの環境基準値未満



（調査書 p47～48）

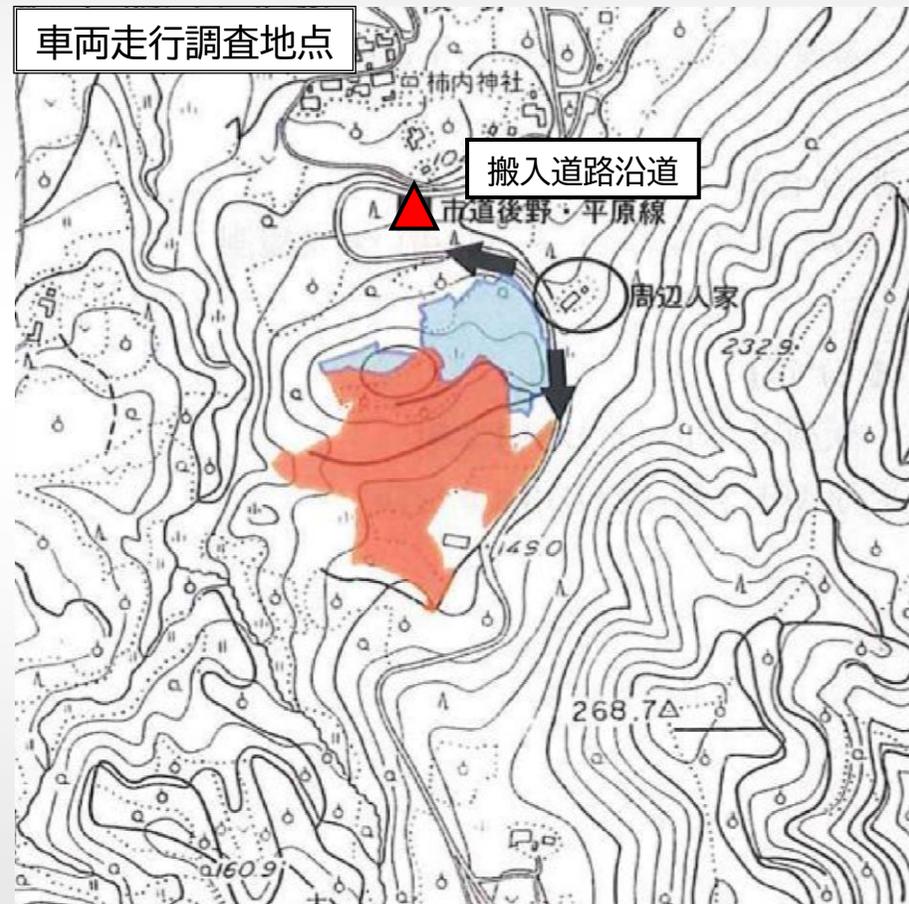
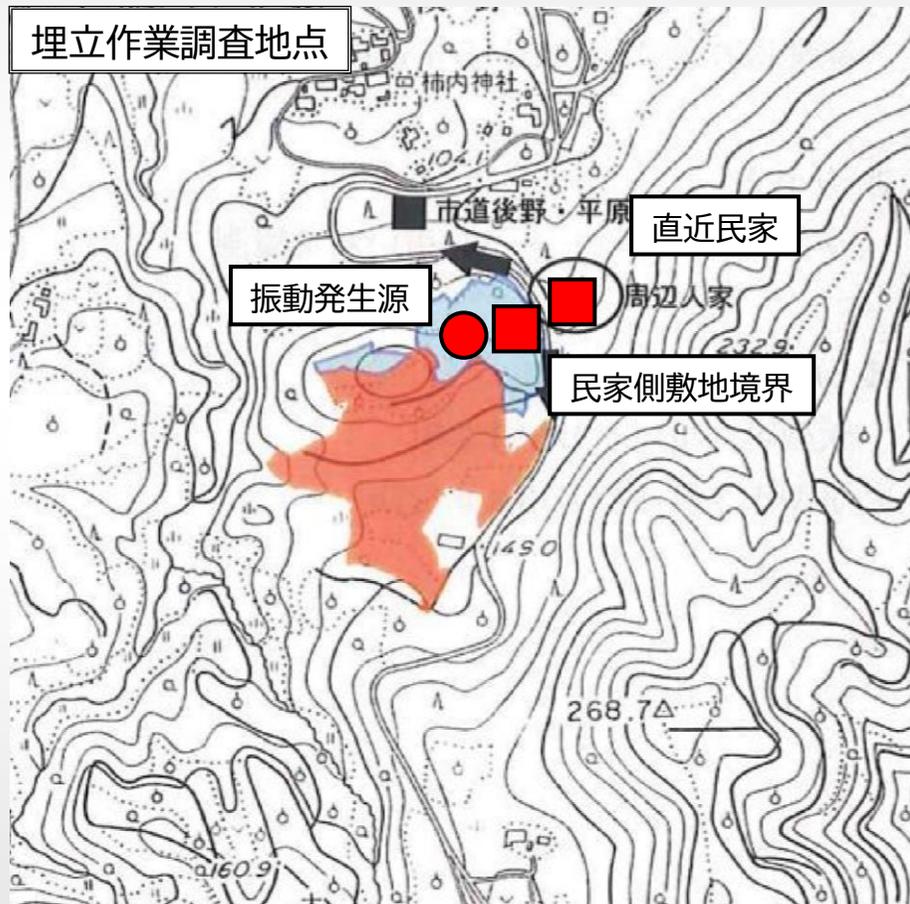
○予測結果

- ・ 最終処分場拡張に伴い増加する廃棄物運搬車両はない
→ 廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音の状況は、現状と変わらず、
B地域の道路に面するの環境基準値未満と考えられる。

【生活環境影響調査結果】

③-1 振動（埋立作業）の調査地点

③-2 振動（廃棄物運搬車両の走行）の調査地点



【生活環境影響調査結果】

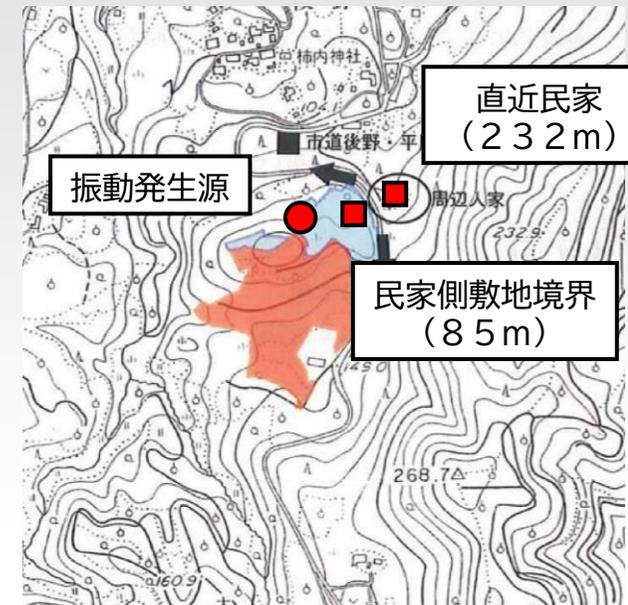
③-1 振動（埋立作業）

（調査書 p49～55）

○現状把握

<現地調査（定常稼働）>

- ・ 民家側敷地境界の L_{10} は 30 dB 未満
（令和5年2月15日、7時～18時）
→ 第1種区域の規制基準値（60 dB）未満
- ・ 直近民家の L_{10} は 30 dB 未満
（令和5年2月15日、7時～18時）
→ 人の振動感覚閾値（55 dB）未満



（調査書 p58～60）

○予測結果

<ダンプトラック及びバックホウの稼働に伴う振動の予測>

- ・ 民家側敷地境界の L は最大 46 dB
→ 第1種区域の規制基準値未満と考えられる。
- ・ 直近民家の L は最大 32 dB
→ 人の振動感覚閾値未満と考えられる。

【生活環境影響調査結果】

③-2 振動（廃棄物運搬車両の走行）

（調査書 p56～57）

○現状把握

<現地調査>

- ・搬入道路沿道の L_{10} は 30 dB 未満
（令和3年6月10日、7時～18時）
→第1種地域の要請限度（65 dB）未満



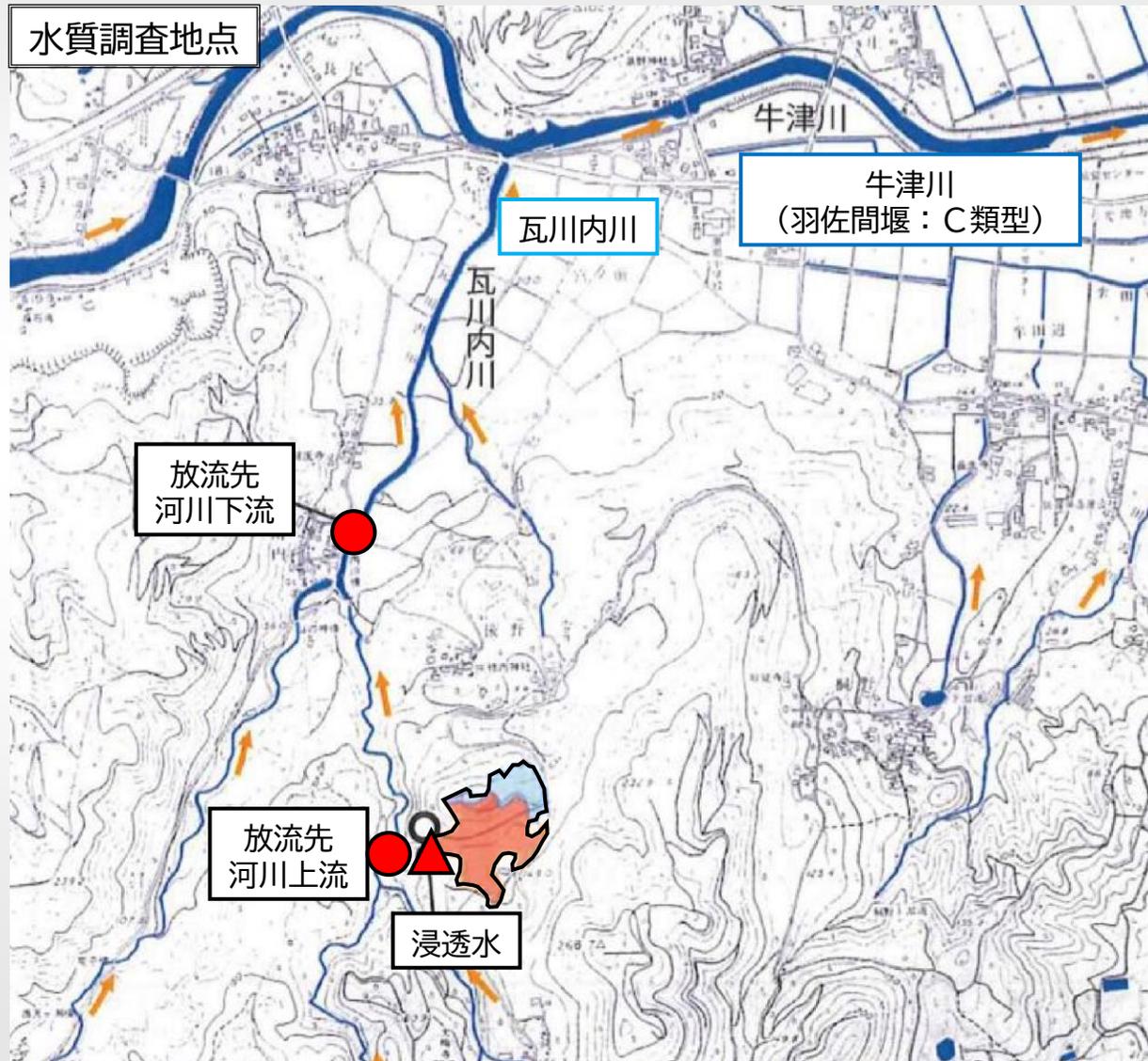
（調査書 p61～62）

○予測結果

- ・最終処分場拡張に伴い新たに発生する廃棄物運搬車両はない
→廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音の状況は、現状と変わらず、
第1種地域の要請限度未満と考えられる。

【生活環境影響調査結果】

④水質（BOD、SS）の調査地点



【生活環境影響調査結果】

④水質（BOD、SS）

（調査書 p68～74）

○現状把握（牛津川：羽佐間堰）

<既存資料調査（平成29年度～令和3年度）>

- ・ BOD（75%値）0.7～1.1mg/L
 - ・ SS（平均値）3～7mg/L
- 環境基準を達成

○現状把握（浸透水）

<既存資料調査（平成30年度～令和4年度）>

- ・ COD（年平均値）5.2～9.6mg/L
 - ・ 排水基準項目25項目 定量限界未満
- 維持管理基準を達成

○現状把握（浸透水、放流先河川）

<現地調査（令和4年10月～令和5年8月）>

	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	流量 (m ³ /h)
浸透水	< 0.5 ~ 2.1	6.8 ~ 8.2	< 1	0.026 ~ 3.0
放流先河川上流	< 0.5	1.5 ~ 2.5	2 ~ 11	72 ~ 790
放流先河川下流	< 0.5	1.9 ~ 2.5	5	120 ~ 660

【生活環境影響調査結果】

④水質（BOD、SS）

（調査書 p75～79）

○予測結果

< BOD >

	流域面積 (m ²)	流量 (m ³ /日)	現況BOD濃度 (mg/L)	BOD発生量 (g/日)	予測結果 (mg/L)
既設処分場	31,599	72.0	2.1	151.2	—
拡張部分	11,871	27.0	2.1	56.8	—
牛津川	151,000,000	51,840	1.1	57,024	1.1

⇒ BODは、C類型の環境基準値（5 mg/L）未満と考えられる。

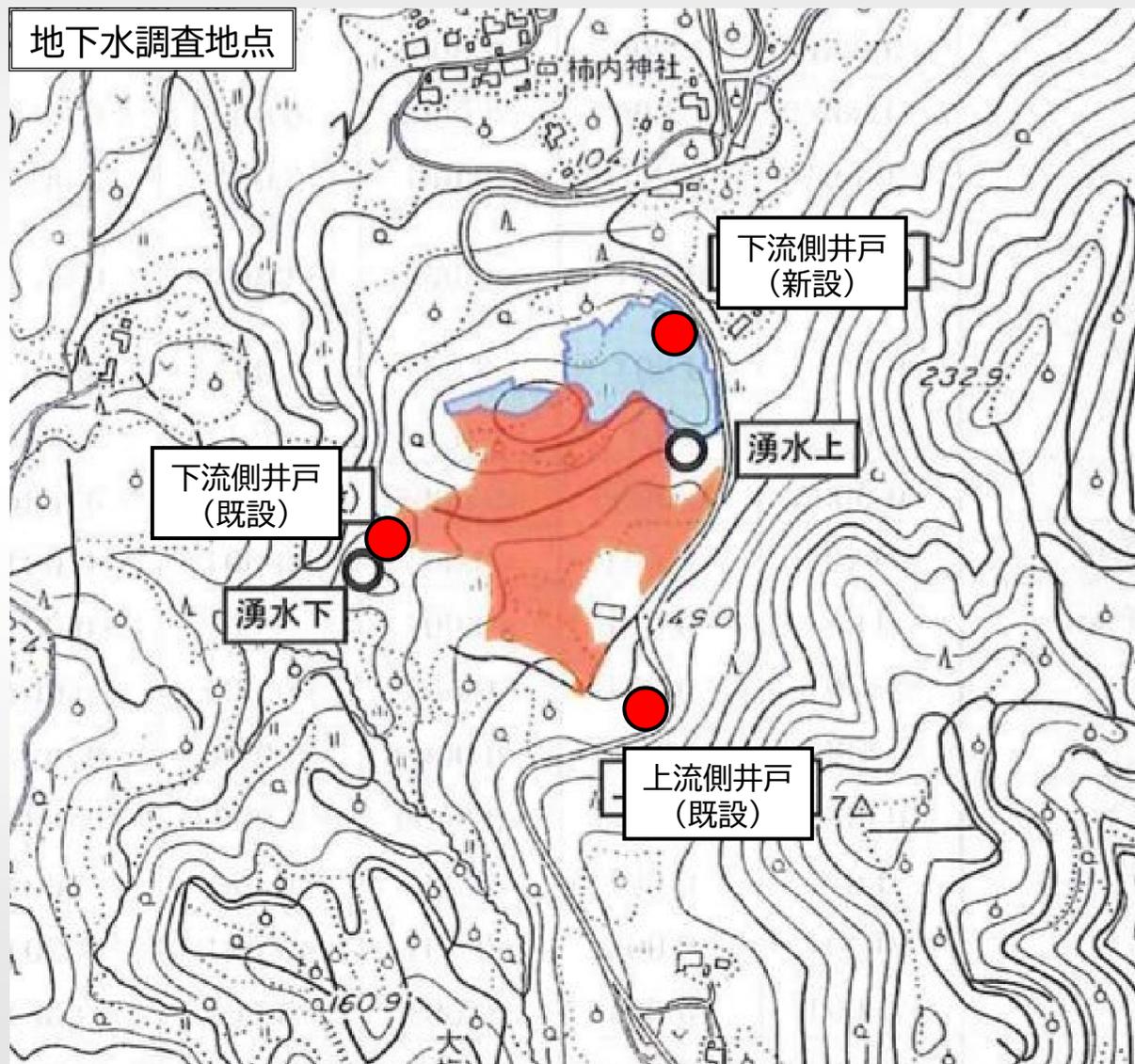
< SS >

	流域面積 (m ²)	流量 (m ³ /日)	現況SS濃度 (mg/L)	SS発生量 (g/日)	予測結果 (mg/L)
既設処分場	31,599	72.0	1	72.0	—
拡張部分	11,871	27.0	1	27.0	—
牛津川	151,000,000	51,840	7	362,880	7

⇒ SSは、C類型の環境基準値（50 mg/L）未満と考えられる。

【生活環境影響調査結果】

⑤地下水の調査地点



【生活環境影響調査結果】

⑤地下水

(調査書 p80～94)

○現状把握（地形・地質、利用状況）

- ・地質は火山性岩石の玄武岩
- ・処分場の下流側の人家では、散水等で地下水の利用あり

○現状把握（湧水）

<既存資料調査（平成30年度～令和4年度）>

- ・地下水基準項目25項目 基準値未満（湧水上、下）

○現状把握（地下水）

<現地調査（令和4年度～令和5年度）>

- ・地下水基準項目25項目 基準値未満（上流側井戸）
- ・地下水基準項目25項目+ふっ素等3項目 基準値未満（下流側井戸2か所）

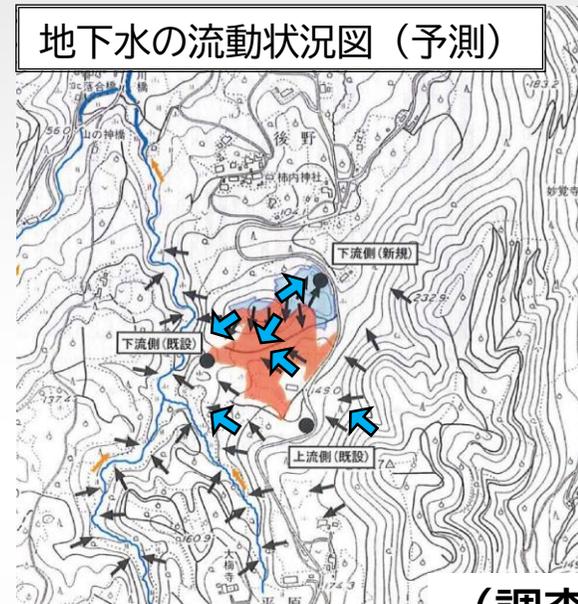
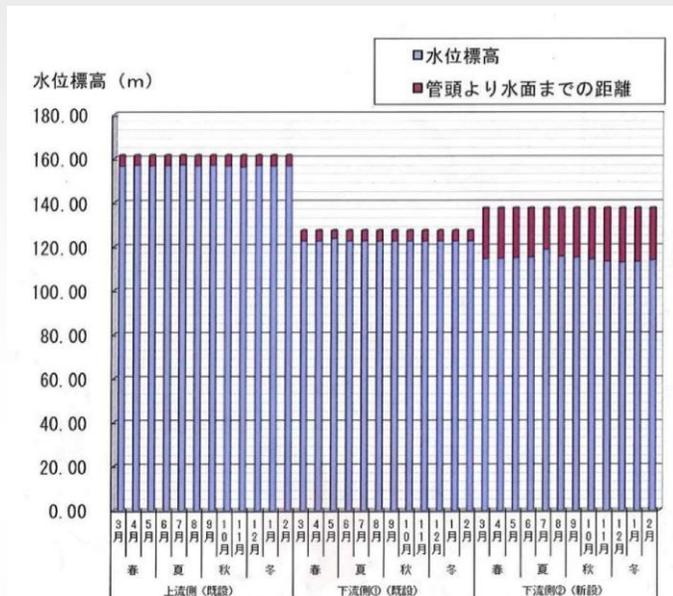
○現状把握（地下水位）

<現地調査（令和4年9月～令和5年8月）>

	春季 (m)	夏季 (m)	秋季 (m)	冬季 (m)
上流側井戸（既設）	156.74 ~ 157.16	156.90 ~ 157.36	156.40 ~ 157.22	156.73 ~ 157.03
下流側井戸（既設）	122.67 ~ 123.82	122.70 ~ 122.72	122.67 ~ 122.70	122.69 ~ 122.71
下流側井戸（新設）	114.62 ~ 115.08	115.27 ~ 118.74	113.47 ~ 115.20	112.98 ~ 114.05

【生活環境影響調査結果】

⑤地下水



(調査書 p95)

○予測結果

- ・当該処分場の拡張に伴い、土地の大規模な掘削は行わず、また、地下水の水位や流動状況に影響を与える構造物等は設置しない。
⇒周辺の地下水の水位や流動状況に及ぼす影響は少ないと考えられる。
- ・埋め立てる品目（安定型5品目）に変更がなく、埋め立て前の展開検査及びガス抜き管の設置を適正に行う。
⇒地下水の水質は現状と変わらないと考えられる。